

令和4年度（予備費） 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

高齢者の生きがいつくりと相談援助におけるICT活用推進事業

活動実績報告書

令和5年3月

社会福祉法人 栗山町社会福祉協議会

事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響によりひきこもりがちな高齢者世帯や独居高齢者世帯等への見守り訪問活動において、タブレット端末を活用しスムーズな職員対応、関係機関と連携した相談援助に繋げることを目的に行う事業。

また、外出自粛によるフレイル予防を目的にスマホ講座やタブレット講座を開催することでオンライン活用方法の普及促進を図り、自主的に健康維持（フレイルの解消や軽減）や親族、友人とオンラインでのやりとりができるなど、生きがいづくりや仲間づくりに繋げる事業。

見守り訪問活動

栗山町社会福祉協議会は、命のバトン配布世帯（ケアラー世帯や一人暮らしの高齢世帯等）596世帯へ孤立防止やストレス軽減のための見守り訪問を実施しています。

ケアラー支援専門相談員が電話連絡し安否確認の他、不安や悩みごとの相談に応じる活動を行っていますが、見守り訪問が必要な世帯に対しては、ケアラー支援専門員とケアラーサポーター（町民ボランティア）が訪問。実際に訪問する際はタブレット端末を携帯し、社会福祉協議会担当職員による制度説明や対応が必要な場合は、事務所とオンライン（LINE アプリ）で繋ぎ、すぐに対応できる体制を整備しました。

見守り訪問件数 延べ220件

タブレット端末活用件数 8件

主な活用内容

- ・ケアラー支援における制度説明
- ・福祉サービスや行政相談窓口の紹介
- ・ケアラースカフェやサロン事業の紹介



これまで職員の対応が必要な時は再度日程調整をして説明等に訪問していましたが、タブレット端末を活用して対応できる事柄については、すぐに対応できるようになりました。また、相談者もオンラインという体験したことのない方法が珍しく、会話の内容も膨らむものとなりました。

訪問時のタブレット端末活用については、社会福祉協議会のみではなく、保健師による健康相談等に活用を広げたく行政へ働きかけを行っています。令和4年度中の実現には至りませんでした。今後も相談窓口が身近になるよう関係機関と連携した相談支援体制の構築を目指します。

タブレット体験講座

栗山町老人クラブ連合会と連携し、北海道介護福祉学校の協力の下、町民向けのタブレット体験講座を開催。タブレット端末10台を導入し、タブレットやスマートフォンの活用方法、アプリの楽しみ方などを実際に触れてもらいながら体験してもらいました。



タブレット体験講座は社会福祉協議会職員が講師となり、北海道介護福祉学校の学生さんがサポート役として加わり開催しました。

参加された方からも「学生さんがとなりで丁寧に優しく教えてくれた。参加してよかった。」など好評で、学生さんからも「普段地域の方との交流がないので、高齢者の方々との交流ができて楽しかった。」との声を頂いています。

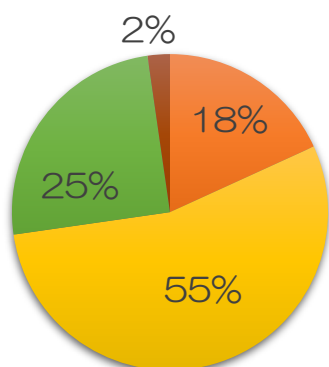
開催期間	令和4年10月から令和4年12月	
会場	栗山町いきいき交流プラザ「ケアラズカフェサンの笑顔」	
開催日	10月17日 参加者10名	スタッフ：職員3名・学生2名
	10月25日 参加者10名	スタッフ：職員5名・学生0名
	11月15日 参加者9名	スタッフ：職員3名・学生3名
	11月22日 参加者9名	スタッフ：職員3名・学生2名
	12月12日 参加者10名	スタッフ：職員3名・学生3名
	12月16日 参加者6名	スタッフ：職員3名・学生2名
	計54名	

タブレット体験講座は定員を超える申込みがあった日もあり、タブレットやスマートフォンのニーズが高いことがわかりました。

また、タブレット端末を使い「脳トレができる」、「カメラレンズを通してすぐに調べものができる」、「遠くにいる方とビデオ通話ができる」ことなど日常生活における活用方法なども紹介。

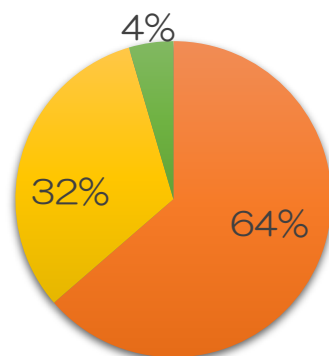
ボランティア団体の集まりや地域の集まりでも同様に講座を開催してほしいという要望を受け、出張講座の開催に繋がりました。

参加者の年齢



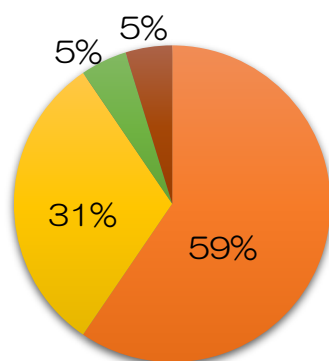
■ 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 90代

スマートフォンの保有率



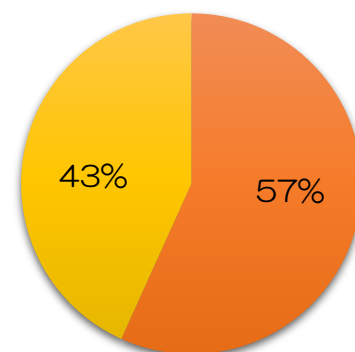
■ 持っている ■ 持っていない ■ 無回答

参加した理由



■ タブレットを持っていないが興味があった
 ■ タブレットを持っているが使い方がわからない
 ■ タブレットの購入を検討している
 ■ その他

参加した感想



■ 今回のような講座をまた受けたい
 ■ もっと詳しい講座を受けてみたい

参加者は70代から80代の方が多く、スマートフォンを保有されている方がタブレットに興味を持たれていました。また、スマートフォンやタブレットを保有していても使い方が分からない方の参加が多かったです。

今回、初心者向けの体験講座を開催しましたが、「もう一度同じ講座を受けたい」「もっと詳しく教えてほしい」との感想が多く、タブレットやスマートフォンに興味を持たれている方がとても多くいることが事業を通してわかりました。

そして、参加者の多くは「一度聞いただけでは忘れてしまう」という感想を多く持たれており、何回も繰り返し参加して頂けるような事業の展開を進めていきたいと考えています。

出張講座

傾聴ボランティア団体の集まりでタブレットを学ぶ

開催日 令和4年12月7日
会場 栗山町総合福祉センター「しゃるる」
参加者 11名

タブレットの基本操作を説明し脳トレアプリなどのゲームを楽しんで頂きました。

タブレットで覚えることがスマートフォンの操作にも役に立つことも関心を寄せられていました。



かくたカフェでタブレットを体験

毎週金曜日に角田地区の方が集いコーヒーを飲みながら交流している「かくたカフェ」でタブレット体験を開催しました。毎回、テーマを決めみんなと一緒に体験をしてもらいました。

特に脳トレゲームは体験会開催日には必ず行っており、今後も交流のツールとして取り入れていきたいと話されています。



開催日 令和4年12月9日 参加者17名
令和4年12月16日 参加者15名
令和5年2月17日 参加者18名
令和5年3月17日 参加者15名
会場 栗山町角田農村環境改善センター

タブレットの基本操作を学ぼう
タブレットで脳トレゲームをやってみよう
タブレットで栗山に新しくできた施設を紹介
タブレットでビデオ通話をしてみよう

つぎたてカフェでスマートフォンの使い方を学ぶ

開催日 令和5年3月8日
会場 遊歩道の駅つぎたて
参加者 9名

継立地区の方が集う「つぎたてカフェ」でスマートフォンの講座を開催しました。

スマートフォンの基本操作やWi-Fiの繋ぎ方、セキュリティ対策などを学びました。

つぎたてカフェでもスマートフォンやタブレットの講座を定期的で開催していきたいとの話しを頂いています。



北海道介護福祉学校の学生による「学生カフェ」でオンラインを体験

北海道介護福祉学校の学生の皆さんがスタッフになり老人クラブや地域に住む高齢者の方と交流する「学生カフェ」をいきいき交流プラザで開催しました。参加者の方々とレクリエーションを楽しんだほか、タブレットを使い一緒にゲームを楽しみ、オンラインで介護福祉学校と繋ぎ、学校にいる学生さん方との交流会を開催しました。



開催日	令和4年 8月 6日	参加者	9名	・ 学生4名
	令和4年10月29日	参加者	7名	・ 学生2名
	令和4年11月19日	参加者	9名	・ 学生4名
	令和4年12月17日	参加者	8名	・ 学生3名
会場	栗山町いきいき交流プラザ「ケアラズカフェサンの笑顔」			

活動成果と活動のまとめ

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンライン化が急速に加速する中、高齢者の方々においてもスマートフォンやタブレットに興味のある方が予想以上に多くいました。

タブレットを導入し講座の開催をしてきましたが、一人ひとりが聞きたいこと、教えてもらいたいことが違い、開催当初は伝え方の難しさに苦慮しましたが、回を重ねる毎に学生と一緒に評価と反省を繰り返し、よりニーズに合った講座の開催に繋がれたと感じています。

また、本事業を通し、タブレットは1人で楽しむものという概念を抱きがちですが、「学生と一緒に楽しむ」「日頃交流している仲間と一緒にゲームを楽しむ」という新しい交流の形へ繋がるものになり、日頃、自宅で介護をしているケアラーの皆さんにとっても集いの場での新しい楽しみになっています。

命のバトン配布世帯への見守り訪問においてはケアラーサポーターがタブレットを携帯し、社会福祉協議会職員の対応が必要な際には、すぐ繋ぐことのできる環境を整備したことにより、外出が難しい方にも何かあった際の窓口が身近なものになりました。

これからの社会、ICTの利活用がさらに進んでいきますが、高齢者の方々に寄り添い、タブレットやスマートフォンを通じた仲間づくりや生きがいがづくり事業を継続して取り組むとともにオンライン相談の更なる拡充を目指していきます。

これからの取り組み

栗山町老人クラブ連合会や北海道介護福祉学校等の関係機関と連携し、高齢者がICT活用に少しでも慣れ、より豊かな生活を送られるよう取り組みを継続し進めていきます。

1. タブレットやスマートフォン講座の定期開催

いきいき交流プラザを拠点として講座を開催し、団体や地域の集まりなどへも出張して開催していきます。また、一人ひとりのニーズに応えられるよう個別相談会を開催していきます。

2. タブレットやスマートフォンを活用した世代間の交流

北海道介護福祉学校等の「学生カフェ」をいきいき交流プラザにおいて定期開催し、高齢者との世代間交流を継続していきます。

3. オンラインを活用した新たな見守り活動

高齢者の孤立・孤独防止に対する見守り訪問していますが、LINEアプリを活用した見守り活動を展開し、より見守り活動を充実させるために新たな繋がり仕組みを構築します。



WAN助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業